

学修における「ChatGPT」等の生成系 AI の利用について

最近注目されている生成系 AI (ChatGPT、Bing AI、Bard、Midjourney、Stable Diffusion 等) は、新たな技術ツールとして世界中で利用が進んでいます。

横浜市立大学での学びは、「広い視野と知識から自らの専門性を切り拓く」ためのものであり、生成系 AI は、そのための有用な相談・参照ツールとなりうることを踏まえ、本学では、その利用自体は制限するものではありません。何より「正しく」利用することが重要であることから、以下に利用のための指針及び留意事項を示します。

【利用のための指針】

- 1 リアクションペーパーやレポート、小論文、学位論文等は、学生自身が考え、作成するものであり、提出物の著者としての責任は学生自身にあります。
- 2 生成系 AI を用いて作成した文章等の生成物は、学生自身が作成したものとはいえ、著者としての説明責任を果たせないことに加え、企図した学修効果等を得られません。
- 3 文法やスペルのチェックなどの基本的なツールとして利用した場合を除いて、提出物の一部に生成系 AI を利用する場合には、例に則って開示 (ツールとして利用する場合) または引用 (文章を引用する場合) してください。
- 4 生成系 AI から得られた情報は、必ずしも正しいものかわかりません。提出物については、必ず全ての資料の確認、プログラムの検証、検算等により十分、批判的に吟味してください。
- 5 生成系 AI に入力した内容は意図せず流出してしまう可能性があります。学生生活で知り得た個人情報や機密情報などは入力しないでください。

【留意事項】

○開示方法の例

【生成系 AI 利用の開示】

本資料の作成にあたり、私 (〇〇) は、〇〇 (生成系 AI の名称) を〇〇 (使用目的) のために使用しました。私は、本 AI ツールから得られた内容を吟味し、必要に応じて修正しており、提出物の全責任は私にあります。

○引用方法の例 (APA マニュアルによる)

〇〇〇 (ChatGPT, personal communication, February 16, 2023)

参考資料: APA "How to cite a nonrecoverable source" Retrieved from

<https://apastyle.apa.org/blog/nonrecoverable-sources>, March 17, 2023.

- 文章そのものを引用する場合は、その箇所が分かるように、指導教員の指示や各学問分野のルールに沿って、引用符を用いて明示してください。
- 長期的に参照可能な資料 (書籍や学術雑誌等) を使用することを推奨します。
- 引用が明記されていない場合は、剽窃・盗用とみなされることがあります。

※授業によっては、利用を制限・禁止する場合があります。講義内や YCU-Board を通じた担当教員の指示に従ってください。

今後も情報収集を行い、適切な利活用について、継続して検討していきますので、指針の改訂が行われる場合があります。最新の指針を確認するよう留意してください。

以上

問い合わせ先
教育推進課・医学教育推進課
E-mail: [acaplan【@】yokohama-cu.ac.jp](mailto:acaplan@yokohama-cu.ac.jp)
※メール送信時は【@】を@に変換してください。